



全然知りませんでした！～仏像のレベル感の話～

奈良は怖い問題をお伝えしましたが、でもお寺は穏やかです。神社になくてお寺に有るもの、それは仏像。でも、この仏像にもレベル感があるようで、ちょっと調べてみました。

仏様は、人間が修行をして悟りを開いてなれる存在で、なかでも有名人トップがお釈迦様です。（ネパールのシャカ族の王子）お釈迦様の考えが広まっていたころには仏像は作られなかったが、お釈迦様の死後にその教えを形として信仰を深めるために、お釈迦様の姿を形どった釈迦如来像が作られたらしい。

① 釈迦如来像

如来とは悟りを開いた者、煩惱を捨て去った人の像ってこと。

だから、質素な衣服で作られている。王子様だけど、全ての装飾品を捨て去ったらしい。頭のイボイボはなんかパンチかかっていますけど…。『螺髪』（らほつ）という悟りを開かんとする向上心を表現したモノらしい。

頭が二段になってますが…。『につけい』といい、悟りを開いた者の証らしい。耳タブも変に垂れてますが…。これ、意味不明。おでこの丸い粒は、インド人の証ではなく、『びやつこう』といって三千の光を照らし出すイメージらしい。座ったままの像が多いのも特徴ね。

釈迦如来像



② 阿弥陀如来像

釈迦の先生だった人。計り知れない光や生命を持ち、西方の極楽浄土を守る。（レベル1）

③ 薬師如来像

東方浄瑠璃の世界の教主。やはり疾病を治癒し延命を授けるって感じで、東方の担当って感じだそうです。（レベル1）

薬師如来像



④ 大日如来像

仏教の真理そのものを表現した大日如来像…真言密教でのご本尊で、毘盧遮那仏と同じということならば、奈良の大仏さんはこれに該当する。（レベル1）

びるしゃなぶつ

こうして、如来はレベル1なのですが、皆さんなぜか座ってます。あっちこっち走り回る必要がない方々ですね。

菩薩像は、レベル2という感じです。まだ悟りを開いてはいないが、菩薩は如来を目指し、人々に御利益や福德を授けてくれる仏像だそうです。がしかし、なんか悟りを求め修行中の割には、やけに派手やかで装飾が過ぎてませんか？ 出家する前のボンボンだった頃のお釈迦様をかたどっている姿ということでご容赦くださいって感じらしい。すべての菩薩像がそういうことでもなく、地味な姿のものもある。色々な人を救うことが修行なので、先ずはその人たちに合った姿形にこなさいって教え。（ほんなら、お釈迦さんは金持ちしか救わんかったんか？って疑問。）その為に、時には怖い顔、時には女性、時には癒すような顔だったり…様々なわけだ。立った像が多く、アッチコッチ走りまわるためらしい…

① 聖観音菩薩

阿弥陀如来の直前の姿で、そのサポート役なので、阿弥陀如来の横に配置されることがある。

② 十一面菩薩

頭に10個の顔を付けて、全方向を見守ってくれるってこと その顔の表情はすべて違う。

③ 地藏菩薩

お釈迦様が亡くなって、弥勒菩薩が現れるまでの無仏時代をすべての生き物を救うと言われる菩薩。余りにも身近におられて、そうか、そんな役目の像なのかとびつくり、なめてました。大地のように広大な慈悲で救済するという意味らしい。

④ 弥勒菩薩

釈迦の後継者として56億年後に悟りを開き、慈悲の心で多くの人を救いまくるのが使命。ちょっと悲しそうな顔してるってのは、出待ちが長すぎて疲れているのか？当初から仏になることを約束されており、宿命みたいに登場するってわけだ。でも釈迦の死後まだ2500年しか経過してませんけど…。

十一面菩薩



お地藏さん、めっちゃめっちゃ長く活躍してもらわんといけないうって話でして…。次号に続く…。（筆・健康法師）

意外と深刻だった！ランドセル問題



来年おじいちゃんになる健康法師ですが、先日社内こんな話題がでました。

～ランドセルは孫への入学祝いとして、祖父母が買うのが恒例となっている～ ここで勃発するのが、「どちらの親が購入するのか」問題です。7人の孫を持つベテラン社員によれば、ランドセルの購入権は取り合いになる、とか。購入権を勝ち取れなかった場合は勉強机の購入が待っている、ランドセルの方が割安なこともあり、負けられない戦いになるそうです。

さて、ランドセル問題2戦目は、「いつまでに買うべきか」問題です。スケジュールは少子化の影響で年々早まり、毎年販売時期や予約時期が違うため、販売時期のチェックが必要です。首都圏では、4～6月にランドセル商戦の7割が終わるそうです。お店の予約が取れず、ランドセルを見に行くだけで苦勞するとか。

最後に、一番問題となっているのが「ランドセル重たすぎ」問題です。もちろん、ランドセル自体は軽量化が進んでいるのですが、「脱ゆとり」の学習指導要領で学習量が増え、教科書のページ数もここ15年で1.7倍に増している状況。さらには、英語や道徳が必修化し、教科書は増すばかりで、通学時のランドセルの重さはばかにならないようです。文部科学省では、教科書を机の中に置いて帰る「置き勉」を2018年から推進していますが、学校によって温度差があり、対策は浸透せず…。腰痛で病院に通う小学生も増えており、子供の成長期に悪影響がでているそうです。

この問題を解決すべく、現役小学生のアイデアで開発されたのが「さんぼセル」。ランドセルに後付け型、背負わずに運べるキャリータイプの器具で、発売当初から3000台の予約、最長4カ月待ちだといいます。しかし、ネット上では「楽をすべきではない。」「両手がふさがって危険。」など、1000件近い大人たちの批判のコメントが殺到したとか。



子供のことを真剣に考えた意見ではなく、いいたいことを言っているだけの批判が多いようです。小学生たちが自ら直面している問題に対して、考えだした解決策を大人が握りつぶすのではなく、サポートする環境を整えられる時代にすべきだと思いました。（筆：黒木）

『1滴の涙で乳がん検診』

友人が乳がんの手術を受けた話を聞き、気になって調べてみると、四十路の私には恐るべし情報が満載。

まずは、40～50歳代の女性の癌の死亡原因：第一位から始まり、5年後の生存率もステージ1の95.2%に対し、ステージ4では16%（国立がん研究センター）まで激減。術後の経過観察期間も胃がんや肺がんの倍にあたる10年とつらい情報ばかりが目白押しです。

しかしながら、各自治体負担で受診を推奨しているマンモグラフィ検診の受診率は40%程度と低迷中。理由は、検診時の強烈な痛み。透明な二枚の板で上下から乳房を挟み、強烈な力で押し潰して画像を撮影するため、とにかく痛い。

そんな痛みと乳がんの恐怖から解放されるかもしれない研究を神戸大学の竹内俊文教授が進めています。その方法は、「1滴の涙」で乳がんの可能性が測定できるというもの。

注目したのは、体内のあらゆる細胞が出す「エクソソーム」という物質。これは、細胞が自分の情報を入れて、別の細胞に伝達する「カプセル」のようなもので、病気になると分泌量が増えるとのこと。また、癌ができる臓器の種類によってもその成分が異なるため、分泌された「エクソソーム」を調べると、どこの癌か判別も可能。

測定手順は

- ①ドライアイの検査にも使われている小さい短冊状の紙「シルマー試験紙」を目じりに置いて数分間目を閉じ、
- ②試験紙をエクソソーム回収液に浸し、
- ③自動分析装置で分析するだけ。

わずか10分足らずで乳がんの可能性を高い精度で確認できます。

2023年までに厚生労働省の製造販売承認の申請を目指しており、検査費用は5,000円程度を予定。



マンモグラフィ検査は自治体が費用負担してくれるため無料から3,000円程度ですので、乳房切除で涙を流す女性を減らすためにも是非自治体負担をお願いしたいものです。（筆：三上）

編集後記

皆様、今回の通信はいかがでしたでしょうか。夏の疲れが出やすい時節でございます。くれぐれも体調を崩されませぬようご自愛ください。次回の通信もお楽しみに！黒木

